

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援センター 千葉市大宮学園 ひまわりルーム		
○保護者評価実施期間	2025年1月7日		2025年1月24日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	35人	(回答者数) 28人
○従業者評価実施期間	2025年1月7日		2025年1月24日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	23人	(回答者数) 18人
○事業者向け自己評価表作成日	2025年3月5日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	週5日毎日通園することができることで身辺面への取り組みや様々な活動経験をし、行事等でその成果を保護者に向けて発表することができる。	繰り返しの支援の中で、利用児の取り組みやすい方法を考え、視覚支援等を使用し、わかりやすい方法で関わりをしている。	研修等で職員のスキルの向上を図り、今以上に特性にあった関わり方ができるように努めていく。
2	園庭が広く、活発に遊ぶことができる。また、雨天時でも室内の吊り下げ式の揺れ遊具で遊ぶことができる。	身体を使っの活動が好きな利用児が多いため、身体をたくさん動かすことのできる活動を1日1回は取り入れている。	利用児の気持ちに寄り添い、様々な遊具で色々な身体機能を使っの活動ができるように支援していく。
3	親子通園の機会を設けており、保護者の方との関係性を深められる。	保護者の方の負担にならないような日程で親子通園日を決めている。	保護者の方の要望等を聞き、今以上に保護者の気持ちに添った支援ができるように努めていく

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	通園バスを運行しているが利用児の自宅近くに乗降場所を設けることができず、乗車時間も長い。	利用児は、市内全域から通われているが、降園時2台のバスでの送迎となっている。	降園時も3台のバスでの運行ができるよう対応を考えていく。
2	他事業所を利用している利用児がいるがその事業所との連携が十分にとれていない。	保護者より様子を聞くことはあるが、他事業所に様子を聞く姿勢が足りていない。	積極的に他事業所にこちらより連絡をとり、支援の方向性の統一がもてるよう連携をとっていく。
3	地域に開かれていない。	近隣の方には行事等の挨拶や招待を行っているが、学生ボランティア、OBボランティア以外のボランティアを積極的に受け入れていない。	ボランティアの募集案内を積極的に行い、療育の中に入って頂き、ひまわりルームについてを知ってもらえるようにしていく。